岡山大医学部
150周年に向け

学生目線で催し

あすから交流会や講演

2020年の岡山大医学部創立150周年に向けた記念イベントが13、14日、岡山市北区鹿田町の同大鹿田キャンパスで開かれる。イベントは節目に向け年1回の開催が計画されており、13、14年に続く3回目の今回は初めて学生が主体となって立案。「夢のみつけ方　医学部の先に見えるもの」をテーマに多彩な催しを繰り広げる。

より学生目線のイベントにーと大学側に提案し、13年夏から講演会に招く講師の選定、出演交渉といった準備に着手。医学部1～3年の11人で実行委を組織し、3年で実行委員長の日高啓介さん(22)、副委員長の中谷真大さん(21)、広報担当の大塚勇輝さん(20)らが中心となり、開催にこぎ着けた。

初日は午後6時から、臨床医や子育て中の女性医師、研修医ら8人と学生たちが意見を交わす交流会を開催。2日目は午後1時から、関節リウマチに関するタンパク質を発見した岸本忠三大阪大名誉教授が「免疫調節分子の発見から抗体医薬へ」と題して講演する。午後2時からは岡山大医学部OBで免疫学の分野で活躍する研究者2人が講演、現役学生との討論もある。

日高さんは「学生には自分の将来を見詰める絶好の機会になるはず。その学生が普段どんなことを考えているのか理解するチャンスでもあり、学外からの大勢の来場に期待している」と話している。

両日とも参加無料。申し込みはウェブサイト（http://www150th.med.okayama-u.ac.jp/）から。問い合わせは岡山大大学院医歯薬学総合研究科の松下治教授（086－235－7157）。

（岸研一）

記念イベントに向け、準備する実行委メンバー

2015年2月12日 山陽新聞朝刊 21ページ　(C)山陽新聞社　無断複製・転載を禁じます。